

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市環境影響評価審査会		
事務局 (担当課)		ゼロカーボン推進課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 0 (直通)		
開催日時		令和 8 年 1 月 1 6 日 (金)    1 9 時 0 0 分 ~ 2 0 時 4 0 分		
開催場所		ソレイユさがみ セミナールーム 2		
出席者	委 員	1 3 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	6 人 (ゼロカーボン推進課長 他 5 人)		
公開の可否		■可    □不可    □一部不可	傍聴者数	2 人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由				
議 題		1    開会  2    議題 (1) 答申 (案) ・「(仮称) 麻溝台・新磯野北部地区土地区画整理事業」計画段階配慮書 ・「(仮称) 麻溝台・新磯野南部地区土地区画整理事業」計画段階配慮書		

## 議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

(○は委員の発言、●は事務局の発言)

### 1 開会

定足数の確認の上、開会した。

### 2 議題

片谷会長の進行により議事が進められた。

審議方法について、事務局より提案があり、2つの事業を一括して審議することが了承された。

まず、麻溝台・新磯野地区第一整備事業に係る地中障害物及び都市計画決定権者及び事業者からの補足資料について、資料1、2に基づき、事務局より説明が行われた。

○（齋藤副会長）過去の調査で僅かな混入物しか確認されていないにもかかわらず、大量の地中障害物が発出されている。詳細を説明してほしい。

●（事務局）過去の調査結果からは、大量の地中障害物があることは想定されなかった。一方で造成工事に伴い掘削したところ、大量の地中障害物が発出された状況である。

○（齋藤副会長）地中障害物に有害物質が混入していた可能性や土壌汚染の有無について、調査はしているか。

●（事務局）廃棄物混じり土については調査を行っており、汚染が確認されたものについては適正に処理しているものと承知している。

○（白井委員）事業計画が決定される前の平成21年までに地下レーダー調査が行われているが、かなり昔の話である。当時に比べ、現在は調査精度等が改良されていると考えられるが、改めて地下レーダー調査を行わないのか。

●（事務局）令和4年の事業再開に伴い、土地の評価を行うために地下レーダー調査を実施している。

続いて、各項目における答申（案）について、資料3に基づき、事務局より説明が行われた。

○（白井委員）廃棄物の項目に関する答申文案だけでは、地中障害物による影響を懸念していることが読み取れない。想定外で発生した廃棄物を含めた表現としたほうがよいのではないか。それが難しいのであれば、地中障害物については、別項目を作り、記載したほうが良いのではないか。

●（事務局）本事業は主に土地の基盤整理を行うものであり、上物の建築に必要な基礎工事等に伴う掘削等は行わないため、大量の地中障害物が発出されるこ

とは想定されないと承知している。そのため、樹木など、主に地表から出る廃棄物を意識した記載としている。

- （白井委員）地中障害物について、審査会で意見が出たことから注意喚起をしたほうが良いと考えている。例えば発生ではなく発出という言葉を使うことにより、工事により新たに発生した廃棄物以外も含まれるような表現にならないか。
- （片谷会長）発生ではなく、発見などといった言葉を使うのはどうか。
- （白井委員）「発生・発見」という表現にするなどしてはどうか。
- （片谷会長）発生だけに留めず、埋設されたものが新たに出てくるといったことが伝わる表現としたい。
- （事務局）意見を踏まえて修正を行う。
- （荒井委員）評価項目に「廃棄物及び発生土」があるが、土と混ざった混合廃棄物は、発生土の項目になるのではないか。
- （事務局）第一整備地区において、混合廃棄物は廃棄物として処分されているため、廃棄物の項目となると考えられる。
- （荒井委員）再資源化に努めることは重要だが、問題になっている地中障害物を処理する場合は、適正処理という言葉の方が適切と考える。そのため、適正処理という言葉を用いたほうが良いのではないか。
- （片谷会長）適正処理という言葉を用いたほうが良いと考える。
- （齋藤副会長）再資源化も適正処理に含まれていると考えられる。
- （齋藤副会長）前回の審査会において、配慮書に対する意見を答申に書いたほうが良いと意見したため、事務局にて文言の修正を行ったようだが、これにより、「調査等を実施するよう求める」趣旨が「配慮を求める」趣旨に変更されており、表現が弱まった印象を受ける。改めて誤解がないように補足すると、配慮書に対する答申が今後の環境影響評価に影響するため、新たな項目を追加すべき、調査をすべきという記載があっても問題はないと考えている。
- （齋藤副会長）一方で配慮書に記載されている内容自体についての評価を記載したほうが良いと考える。
- （事務局）前回示した答申の趣旨が、方法書の段階で伝えるべき内容のような表記になっていたことを踏まえて修正を行ったもので、表現を弱めたものでない。
- （齋藤副会長）個々の項目の内容に異論はないが、全体の中に配慮書に対する評価を記載したほうが良いと考える。
- （片谷会長）資料1、2、3について欠席委員からの意見はあるか。
- （事務局）特になし。
- （片谷会長）答申案の内容については概ね同意が得られたものとする。細かい文言の修正については、会長、副会長と最終調整することでよい。

○（各委員）異論なし。

続いて、答申（案）について、資料4及び資料5に基づき、事務局より説明が行われた。

○（片谷会長）答申（案）について、内容は概ね了承したものとして、細かい文言の修正等については、会長、副会長一任でよい。

○（各委員）異議なし。

○（齋藤副会長）配慮書で選定されている重大な環境影響を及ぼすおそれがある項目が記載されていないことに違和感がある。配慮書で選定された項目とそれに対する評価がないと項目選定に問題があったと受け止められる可能性がある。選定された項目に対する評価を記載したほうが良いのではない。

●（事務局）他の自治体において、重大な環境影響を及ぼすおそれがある項目について概ね妥当な配慮がされているといった旨の記載をしている答申があることも承知している。一方で今回の審査においては、配慮が不足していると思われる部分に対する意見が主であったことから、選定された項目に対する評価は記載していなかった。

○（片谷会長）懸念という言葉は強い表現であり、市民の不安を煽る可能性がある。配慮を求めるといった表現にしたほうが良い。

○（荒井委員）配慮書では、重大な環境影響を及ぼすおそれがある項目として、廃棄物は非選定となっているが、事業者がそのように考えているという認識でよい。

●（事務局）そのとおり。

○（荒井委員）一方で市民からは地中障害物の影響を懸念する声が寄せられており、また審査会でも廃棄物についても配慮が必要という考えとなったため、答申に記載し、事業者に伝えるということでよい。

●（事務局）そのとおり。

●（事務局）委員からの意見を踏まえて修正を行う。

○（石井委員）答申文案にはおおむね了承した。本来は3つの事業が合わさって周辺に大きな影響を与えるが、それについて議論がされておらず、今後もこのまま進んでいってしまうと思われる。例えば山梨県では、事業地が隣接しており、事業者が同じ場合や土地所有者が同じ場合は一つの事業とすることになっている。今後検討するときには地区全体で見たほうがよいと考える。

●（事務局）相模原市環境影響評価条例においても、複数の事業を一つの事業群として捉える複合事業という規定があるが、北部地区と南部地区では事業者が異なるため、これには該当しない。一方、こうした地域特性があることも踏ま

え、今回、可能な限り複合的影響を見ることを伝える答申案としている。

○（石井委員）元々は一体であった事業を分割したことについて、今後対応を検討したほうが良いと考える。本来であれば一つの事業として、地域に与える影響を検討すべきだが、事業ごとに分けて評価を行う意味が分からない。

●（事務局）当初、麻溝台・新磯野地区は全体で土地区画整理事業を行う予定であったが、地権者が多く合意形成に時間がかかるなど様々な課題があったことから、市が施行者として、第一整備地区を先行して事業化した経過がある。

答申案には周辺で行われる道路の整備や土地区画整理事業の影響を含めて、評価を行うべきという趣旨の意見を記載している。

○（石井委員）懸念点が2つあり、1つ目は当初の計画通り、麻溝台・新磯野地区で一つの事業で環境影響評価等を検討すればよかったこと、2つ目は行政が小分けにしてやってよいということを示してしまうと、民間事業でも同様のことが起こり得る可能性があるため、分けて実施したことを明確に説明できるようにする必要がある。

●（事務局）分割して事業が進められている中で、環境影響評価条例に基づいた手続きが行われている。第一整備地区については、先行して事業化することになった経緯について市民に説明を行っている。

以 上

# 相模原市環境影響評価審査会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	青木 雄司	青山学院大学 非常勤講師		出席
2	朝日田 卓	北里大学 海洋生命科学部 教授		出席
3	荒井 康裕	東京都立大学 都市環境学部 准教授		出席
4	石井 信行	山梨大学大学院 総合研究部 工学域 准教授		出席
5	片谷 教孝	桜美林大学 リベラルアーツ学群 教授	会長	出席
6	亀卦川 幸浩	明星大学 理工学部 教授		出席
7	齋藤 利晃	日本大学 理工学部 教授	副会長	出席
8	澤田 博司	日本大学 文理学部 教授		出席
9	白井 正明	東京都立大学 都市環境学部 准教授		出席
10	鈴木 美緒	東海大学 建築都市学部 准教授		出席
11	塚田 英晴	麻布大学 獣医学部 教授		出席
12	松本 涼子	神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員		欠席
13	御法川 学	法政大学 理工学部 教授		欠席
14	横内 恵	亜細亜大学 法学部 准教授		出席
15	吉田 圭一郎	東京都立大学 都市環境学部 教授		出席